

# SCOUTING JAPAN

団 体 案 内



**SCOUTS**<sup>®</sup>  
Creating a Better World



そなえよつねに  
**ボーイスカウト**



# なろう。一人前に。

生命を尊重する心、仲間と話し合っ  
て協力する心、モラルや正義感、  
自然や美しいものに感動する心  
などが子どもたちの「生きる力」  
の基礎となります。

少年期、青年期の問題が社会の関  
心と注目を集めている今、子ども  
たちをより良い方向に導いていく  
ために、地域社会の教育力に目  
が向けられています。

このような状況の中で、ボーイス  
カウトの果たす役割はきわめて大  
きく、私たちは、社会の期待に応  
える責任と使命があると考えてい  
ます。

まもなくボーイスカウト日本連  
盟は創立100周年を迎えます。

社会奉仕活動や、自然の中での  
体験などを多く取り入れた、ボー  
イスカウトのさまざまな活動をと  
おして、青少年の健全な心と体の  
育成に貢献したいと、私たちは、  
強く願っています。



YEARS OF SCOUTING  
IN JAPAN

---

1922 - 2022

---



#### 歴史的な実験キャンプ

1907年、ボーイスカウトの創始者ロバート・ベードン・パウエル卿は、イギリスのブラウンシー島に20人の少年たちを集めて実験キャンプを行いました。これがボーイスカウト運動の始まりです。



#### 世界スカウト章

世界スカウト機構の共通マークで、全世界の加盟員はユニフォームに着用することが認められています。

## ボーイスカウト運動の歩み

### ボーイスカウト運動の始まり

ボーイスカウトは、健やかな子どもを育成する世界的な運動です。この運動は、1907年にイギリスのブラウンシー島で行われた小さなキャンプからスタートしました。

かねてから少年たちの教育に大きな関心をもち、このキャンプを主宰したイギリス人のロバート・ベードン・パウエル卿は、インドや南アフリカでの体験をもとにさまざまな野外教育を通じて、少年たちが男らしさを身につけ、将来社会に役立つ人間に成長することを願い、20

人の子どもたちとともに実験キャンプを行いました。

このキャンプの体験をもとに、翌年『スカウティング フォア ボイズ』という本を著し、少年たちの旺盛な冒険心や好奇心をキャンプ生活や自然観察、グループでのゲームなどの中で発揮させ、「遊び」とおして少年たちに、自立心や協調性、リーダーシップを身につけさせようとなりました。これがボーイスカウト運動の始まりです。

### 日本におけるボーイスカウト運動の始まり



1912(明治45)年 神戸のフレデリック・ウォーカー牧師が設立したボーイスカウト隊。

日本には、1908(明治41)年にボーイスカウト運動が伝わり、全国各地に色々な少年団が数多く作られました。その後、全国的な統一結成への動きが起こり、1922(大正11)年4月13日に「少年団日本連盟」が創立され、ボーイスカウト国際事務局に正式加盟し、世界の仲間入りを果たしました。これが日本におけるボーイスカウト運動の始まりです。



#### 創始者

ロバート・ベードン・パウエル卿  
(1857年～1941年)

# ボーイスカウト運動の組織と構成

## ボーイスカウトの構成

ボーイスカウトの活動は、各年齢層に応じ5つの部門により構成されています。

|           |             |
|-----------|-------------|
| 小学校1年生4月～ | ■ ビーバースカウト  |
| 小学校3年生4月～ | ■ カブスカウト    |
| 小学校6年生4月～ | ■ ボーイスカウト   |
| 中学校3年生9月～ | ■ ベンチャースカウト |
| 18歳～25歳   | ■ ローバースカウト  |

2017(平成29)年3月末の加盟登録状況は、全国に2,102こ団、8,604こ隊があり、109,528人(スカウト62,175人、指導者47,353人)が活動しています。

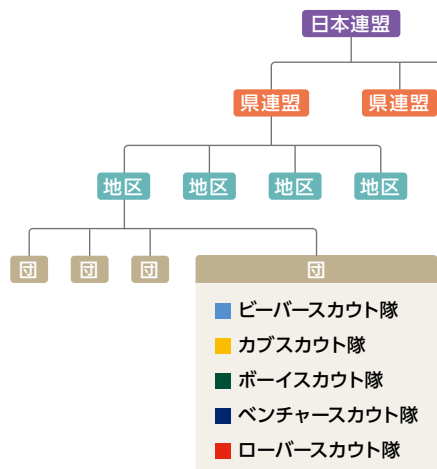
## 女子スカウトも一緒に活動

1995(平成7)年以降、各部門に女子が参加できるようになりました。同じユニフォームを着用し、キャンプやゲーム、奉仕活動など、一緒に活動しています。

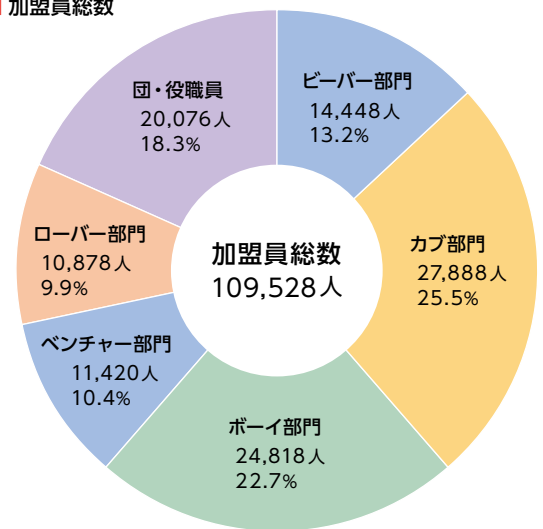
## 日本におけるボーイスカウト運動の現状

現在、全国47都道府県、それぞれに県連盟事務局を設置し、全国的な活動を展開しています。各県連盟の自立性と独自性を重んじ、地域に根ざした活動を行っています。各県連盟は、おおそ行政単位ごとに地区を構成し、その下に団・隊が組織されています。

### ■ ボーイスカウト日本連盟組織



### ■ 加盟員総数



**Beaver Scout**

ビーバースカウト  
小学校1年生の4月から  
(就学直前の1月から仮入隊できる)



**Cub Scout**

カブスカウト  
小学校3年生の4月から



**Boy Scout**

ボーイスカウト  
小学校6年生の4月から



**Venture Scout**

ベンチャースカウト  
中学校3年生の9月から



**Rover Scout**

ローバースカウト  
18歳～25歳

「ボーイスカウト」とは……

スカウトとは「先駆者」のことで、ボーイスカウトには「自ら率先して幸福な人生を切り開き、社会の発展の先頭に立ちとうとする少年」という意味が込められています。

# ボーイスカウト運動の教育

## 世界共通のヴィジョン：

### Creating a Better World (より良き社会を創る)

#### 目的：より良き社会人の育成

本連盟は、ボーイスカウトの組織を通じ、青少年がその自発活動により、自らの健康を築き、社会に奉仕できる能力と人生に役立つ技能を体得し、かつ、誠実、勇気、自信および国際愛と人道主義を把握し、実践できるよう教育することをもって教育の目的とします。

## ボーイスカウト運動の特徴は

- 1 青少年の自発活動であること。
- 2 青少年が、誠実、勇気、自信、および国際愛と人道主義を把握すること、健康を築くこと、人生に役立つ技能を体得すること、社会に奉仕できるための人格・健康・技能・奉仕を4本柱としていること。
- 3 幼児期から青年期にわたる各年齢層に適應するよう、年齢に応じた部門があり、それぞれのプログラムが一貫していること。

などがあげられます。

ボーイスカウトの教育が他の青少年団体と異なるところは、

#### ■ ちかいとおきて

— ち かい —

私は名誉にかけて  
次の三条の実行を  
ちかいます

一、神(仏)と国とに  
誠を尽くしおきてを  
守ります

一、いつも他の人々を  
たすけます

一、からだを強くし  
心をすこやかに  
徳を養います

---

— お きて —

1 スカウトは  
誠実である

2 スカウトは  
友情にあつい

3 スカウトは  
礼儀正しい

4 スカウトは  
親切である

5 スカウトは  
快活である

6 スカウトは  
質素である

7 スカウトは  
勇敢である

8 スカウトは  
感謝の心をもつ

そのプログラムにあります。それは、「ちかい」と「おきて」の実践、班制教育、進歩制度、野外活動を取り入れていることです。

ボーイスカウトの教育では、どのようなときにも、どのような場でも、すべての活動が「ちかい」と「おきて」の実践を基盤において行われています。

「ちかい」は、自分自身に対して誓うものであり、また、スカウトの「おきて」は毎日の生活のものさしとして自分の行動を律するものです。

## 進歩制度 (バッジシステム)

人には、それぞれ生まれもった才能もあれば、成長するにつれて興味をもつようになった趣味などもあります。一人ひとりが、個性豊かな可能性を秘めています。子どもたちの成長にあわせ、個性を伸ばしながら、社会人として必要な資質を一つずつ身につけさせるもの。それが進歩制度の考え方です。

進歩制度には、必ず身につけるべき共通のもの(修得課目)と、各人の趣味や得意な技能を伸ばすもの(選択課目)があり、修得課目は色々な活動を通じて修得に努力し、規定の課目を完修すると進級章が与えられます。

## 小グループ活動 (班制教育)

班は、少人数の子どもたちにより編成されます。ボーイスカウトの班は、

- 遊びの仲間により作られた、異年齢の集団。
- 仲間の1人にリーダーシップをとらせる。
- 6~7人のグループで、一人ひとりが、班の運営のために明確な役割を分担する。

ことを特徴としています。班は、子どもたちの自治のグループであり、指導力と責任感を養成する場所です。

## 野外活動

ボーイスカウトの教育における野外活動は、単なる戸外ではなくもっと広い、もっと大きな自然から学ぶことを意図しています。つまり、大自然を教場としているのです。大自然の中に身をおき、身体を鍛え、技能を磨き、知識と強い意志を身につけます。

なかでも大自然の神秘に触れ、人知のおよばぬ強大な力を感じるとき、創造主としての神を信じ、仏の加護に感謝する気持ちが生まれ、自然と信仰が芽生え育っていきます。

このような日常のスカウト活動を通じて育っていく信仰心が、年齢を重ねていくにしたがい、より明確な形となり、神(仏)へのつとめを果たす社会人になっていくのです。





街頭募金などの実施

全国各地で赤い羽根やユニセフ、震災支援などさまざまな取り組みを実施。社会に貢献しながら、他の人々の役に立つことなども学びます。

## 人間性を育むボーイスカウト運動

### 国際協力活動

現在の日本は、未曾有の災害や世界規模の経済危機に直面し、近隣諸国や世界との協調・協力による課題への取り組みが求められています。ボーイスカウトは、世界的な組織があり、他の国々の仲間とも力を合わせながら活動を推し進めているグローバルな青少年団体です。こうした背景をもとに、ボーイスカウト日本連盟では、国際理解・国際協力プログラムを積極的に展開し、世界各国との交流活動・支援活動を行っています。

特に、国際協力については、それぞれの部門において各年代に応じたプログラムを展開することにより、世界に向けた子どもたちの小さな芽が、将来大きくはばたく「地球市民」へと成長することが期待できます。

日本のローバースカウトは、これまでバングラデシュ、ウガンダなどの各地を訪れて、現地のスカウトと協働しながら国際協力活動を行ってきました。また、フィリピンで行ってきた韓国・台湾のスカウトとの共同活動を発展させ、バングラデシュにおける国際協力活動を行っています。



### ボーイスカウトと環境教育

スカウトたちにとって森や川、海といった野外のフィールドは活動の舞台です。100年以上も前にスカウト活動が始まってから今日まで、スカウトたちは野山や森林を訪ね、自然を友とし、自然と親しむ能力と心を育んできました。そうした中で、自然愛護の具体的な方法を身につけます。地球環境の保全が叫ばれる今日、こうしたスカウトの姿勢は新たな角度から再評価されており、ボーイスカウトでは毎年9月の敬老の日を「スカウトの日」として、全国で「環境」を中心としたさまざまなテーマの奉仕活動を展開しています。





世界では169の国と地域約4,000万人が参加

## 国際性豊かなボーイスカウト運動

### 世界への拡がり

ボーイスカウト運動の目的・教育システムは世界共通です。名称も世界共通で、「ボーイスカウト」または単に「スカウト」と世界中で呼ばれています。1920年には、国際事務局がロンドンに開設され、以来、性別・人種・宗教・言語など、あらゆる違いを超えて、世界中の青少年の友愛を深めることを目指したスカウト活動が積極的に展開されています。

現在、世界スカウト機構に169の国と地域が正式加盟し、約4,000万人が活動しており、世界事務局がマレーシアのクアラ Lumpur に設置されています。また、これまでに2億5,000万人以上の人々が人生の一時期にスカウト活動を体験して、それぞれの社会で有能な一員として活躍しており、この運動の実績は高く評価されています。この数字は、ボーイスカウト運動が世界的規模で発展していること、その意義が広く世界に認められた証といえます。

### ジャンボリーをはじめとした各種大会

ボーイスカウトでは各種のキャンプ大会を開催し、スカウトたちはそこで日ごろの訓練で培った技能や技術を発揮するとともに、多くの仲間たちと友情を深めます。

日本の大会の中で最も規模が大きいものは、4年に1度開催する日本スカウトジャンボリーで、全国47都道府県から約2万人のスカウトが一堂に会し、野外を主な教育の場として学び、相互理解・国際親善を図ります。本年8月には石川県珠洲市で、第17回日本スカウトジャンボリーを開催します。

また、日本スカウトジャンボリーとは異なる年に、やはり4年に1度世界スカウトジャンボリーが開催されています。2015年には第23回世界スカウトジャンボリーを山口市阿知須・きらら浜で開催、世界中の155の国と地域から約3万4,000人が参加しました。また、この大会の前後に全都道府県で約7,000人以上をホームステイで受け入れました。来年の夏はアメリカ・ウェストバージニア州にて第24回世界スカウトジャンボリーが開催され、日本からも1,000人規模の参加を予定しています。

この他にも、障がいのあるスカウトの大会「日本アグーナリー」などを4年ごとに開催しています。

# ボーイスカウト運動への支援

## ボーイスカウト運動の財政を支えるもの

ボーイスカウト日本連盟は、学校教育を補完する社会教育の分野を担う公益財団法人です。活動の財政基盤は、加盟員の登録料、一般財団法人ボーイスカウトエンタープライズからのスカウトブランド使用料、そして多くの方からの維持会費をはじめとする各種寄付金・助成金を、収入の3本柱として運営しています。

皆さまからのご厚志は、

- ジャンボリー、アグーナリー（障がいのあるスカウト等の大会）等各種大会の開催
- 国際社会で活躍・貢献できる人材育成のためのプログラム開発
- 国際交流事業の積極的展開
- 野外教育活動の幅広い展開のための野営場、研修宿泊施設の整備
- ボランティア指導者の育成強化
- ボーイスカウト運動に参加いただくための普及事業

など、ボーイスカウト運動の一層の発展に活用させていただいております。

ご希望の方には、維持会員ご加入についての詳しい案内書をお送りいたします。

免税措置について／ボーイスカウト日本連盟は内閣総理大臣より「公益財団法人」の認定を受けておりますので、寄付金や維持会費（維持資金寄付金）については一定の免税措置が受けられます。

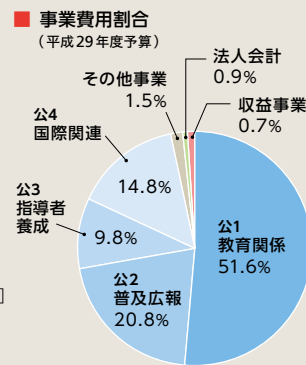
## 指導者の養成

ボーイスカウト日本連盟には47,353人の指導者が登録しています。指導者はさまざまな職業に就く一般の成人で、ボーイスカウト運動に共鳴してボランティアとして活動を続けています。日本連盟では、指導者の拡充やレベルアップにも重点を置き、さまざまな研修システムを取り入れています。

## 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

2017年12月31日現在

|          |  |
|----------|--|
| 創立       | 大正11年4月13日   |
| 法人許可日    | 昭和10年7月1日（財団法人）                                      |
| 公益財団法人認定 | 平成22年4月1日  |
| 代表者      | 理事長 奥島 孝康  |
| 基本財産     | 1,301,101,392円<br>（2017年3月31日現在）                     |
| 会員数      | 加盟員 109,528人<br>維持会員 3,762人〔内法人117件〕<br>2017年3月31日現在 |
| 職員       | 28人  |



**目的** 世界スカウト機構憲章に基づき、日本におけるボーイスカウト運動を普及し、その運動を通じて青少年の優れた人格を形成し、かつ国際友愛精神の増進を図り、青少年の健全育成に寄与することを目的とする。

- 事業**
- ① ボーイスカウト運動の普及及び広報
  - ② ボーイスカウト運動の教育計画の策定及び運営
  - ③ 指導者の養成
  - ④ 国際相互理解の促進及び国際協力
  - ⑤ 地球環境の保全・保護及びその教育
  - ⑥ ボーイスカウト教育の特長を活かした自然体験活動等の推進
  - ⑦ 教育に必要な施設の提供
  - ⑧ 集会及び講演会の開催
  - ⑨ 図書、雑誌等の刊行並びに電子媒体による情報の発信及び受信
  - ⑩ 教育に必要な用品の調製及び供給
  - ⑪ 安全普及啓発活動と共済制度の運用
  - ⑫ その他目的達成のため必要な事業

### 主な出来事

|            |  |                  |
|------------|--|------------------|
| 1922(大正11) | 少年団日本連盟設立  | 総裁 後藤新平、理事長 二荒芳徳 |
| 1935(昭和10) | 法人格を取得し、財団法人大日本少年団連盟に名称変更                              |                  |
| 1941(昭和16) | 政府方針により、大日本少年団連盟は、他の青少年団体とともに大日本青少年団に統合                |                  |
| 1947(昭和22) | ボーイスカウト日本連盟臨時中央理事会設立（戦後再建）                             |                  |
| 1949(昭和24) | 財団法人ボーイスカウト日本連盟として再発足                                  |                  |
| 1956(昭和31) | 第1回日本ジャンボリー開催（長野県軽井沢）                                  |                  |
| 1958(昭和33) | 財政運営団体（財団法人ボーイスカウト日本連盟）と教育推進団体（任意団体ボーイスカウト日本連盟）とに組織を分割 |                  |
| 1970(昭和45) | ボーイスカウト会館設立（東京都三鷹市）                                    |                  |
| 1971(昭和46) | 第13回世界ジャンボリー開催（静岡県朝霧高原）                                |                  |
| 1972(昭和47) | 沖縄のスカウト運動、日本連盟に正式移行                                    |                  |
|            | 日本連盟結成50周年記念事業（明治神宮会館で開催した中央式典に昭和天皇ご臨席）                |                  |
| 1973(昭和48) | 財団法人ボーイスカウト日本連盟に組織を一体化、試験研究法人指定                        |                  |
|            | 第1回日本アグーナリー（国際障がいスカウトキャンプ大会）開催（愛知県青少年公園）               |                  |
| 1982(昭和57) | ボーイスカウト運動創立75周年  |                  |
|            | ボーイスカウト日本連盟創立60周年記念事業                                  |                  |
| 1986(昭和61) | ピーバースカウト部門発足   |                  |
| 1995(平成7)  | 全部門への女子の加入を認める   |                  |
| 1997(平成9)  | ボーイスカウト日本連盟創立75周年中央式典開催（東京都日比谷公会堂）                     |                  |
| 2007(平成19) | 世界スカウト運動創始100周年記念事業を実施                                 |                  |
| 2010(平成22) | 財団法人から公益財団法人に移行  |                  |
| 2011(平成23) | ボーイスカウト会館移転（東京都文京区）                                    |                  |
| 2012(平成24) | ボーイスカウト日本連盟創立90周年事業を実施                                 |                  |
| 2015(平成27) | 第23回世界スカウトジャンボリー開催（山口県阿知須きさら浜）                         |                  |



**公益財団法人 ボーイスカウト日本連盟**

〒113-8517 東京都文京区本郷 1-34-3

[事務局] TEL: 03 (5805) 2561 FAX: 03 (5805) 2901  
ホームページ <http://www.scout.or.jp/>  
Eメール [info@scout.or.jp](mailto:info@scout.or.jp)

[那須野営場] 〒329-2756 栃木県那須塩原市西三島7丁目334  
TEL: 0287 (36) 0708 FAX: 0287 (37) 2327

[大和の森 高萩スカウトフィールド]  
〒318-0104 茨城県高萩市中戸川字菖蒲沢412  
TEL: 0293 (44) 3551 FAX: 0293 (44) 3552

[スカウトミュージアム・スカウトライブラリー]  
〒113-8517 東京都文京区本郷 1-34-3  
ボーイスカウト会館3階 TEL: 03-5805-2907



公益財団法人

**ボーイスカウト日本連盟**

SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN